

SJ

The Safety Japan
since 1971

Close Up

クローズアップ 教育プログラム①

小学校の先生方による継続的な指導を サポートするための「デジタル交通安全かるた」

多くの小学校では年に数回、交通指導員による交通安全教室が実施されている。しかし、年に数回の交通安全教室では、教室直後は行動に変化が見られたとしても、時間の経過とともに元に戻る傾向にある。交通安全教室での教育効果を維持するため、Honda では小学校の先生方がこどもたちに手軽に交通安全教育を実施できる教材「デジタル交通安全かるた※」を無償配布している。今回は、この教材を取り入れた小学校での活用事例を紹介する。

※かるたで遊びながら「正しい交行動」や「命の大切さ」について学べるようになっている教材。こどもたちに覚えてほしい交通ルールやマナーを45の絵札と読み札でわかりやすく紹介している。詳細は以下のホームページ参照。
https://www.honda.co.jp/safetyinfo/digital_karuta/



絵札が表している交通ルールや
マナーを児童に考えてもらう

Honda の教育プログラムを用いた小学生（1～6年生）への交通安全教室の効果検証を実施したところ、受講直後には歩行状態の改善や、横断歩道通行での手上げの増加、道路への飛び出しの減少が見られたものの、時間の経過とともに受講前の状態に戻る傾向が見られ、教育効果を維持するには継続的な指導が必要であるということがわかった（検証結果の詳細は2022年春号参照）。

そこで、Honda は年に数回実施される交通安全教室だけでなく、日常的に継続した教育が可能となるよう、小学校の朝の会や、帰りの会などの時間を使って指導ができる教材を検討。小学校の先生方に意見をうかがいながら、手軽に短時間で繰り返し教育を行え、こどもたちが楽しみながら安全な行動を意識できるような教材として「Honda 交通安全かるた（以下、デジタルかるた）」を開発した。

「デジタルかるた」はパソコンやタブレット端末を通じて、モニターやスクリーンに絵札を表示させ、その絵札が表している交通ルールやマナーについて児童に考えてもらう。次に、読み札を表示させて、絵札の意味することに気づいてもらう。絵札はアニメーションになっており、この機能を使って、様々な交通場面における安全行動も理解してもらえるようになっている（P2参照）。かるた1枚あたりの指導時間は2分程度である。

事例① 高知大学教育学部附属小学校 1～6年生のクラス担任が「デジタルかるた」を使って指導

高知大学教育学部附属小学校（高知県高知市）は「デジタルかるた」を取り入れ、1～6年生（634名）全クラスの担任の先生が児童への交通安全教育に役立てている。

同校の教頭 近藤修史さんは「当校の校区は広域にわたり、通学には公共交通機関を利用しているため、登下校時の地域の方の見守りなどはありませんし、保護者による送迎も禁止しています。そのため、こどもたちの安全意識を高めることは大きな課題とらえています。この『デジタルかるた』を見た時、日々継続して使える教材だと感じ、すぐに取り入れたいと思いました」と話す。

近藤さんが先生方に「デジタルかるた」について説明すると、「こんな教材があるなら使ってみよう」という前向きな反応があったという。「特に若い教員は交通安全教育の必要性は理解しているものの、何から始めて良いのかわからないため、なかなか着手できないようです。具体的な教材があると、取り組みやすいようで興味を示してくれました。『デジタルかるた』のデータは全員で共有できるようにして、タイミ



高知大学教育学部附属小学校では1～6年生の全クラス担任が「デジタルかるた」を活用。タブレット端末の画面をモニターに表示させて使用している。3・4年生（複式学級）の担任教諭 橋詰拓さんは、読み札の最後のフレーズを提示して絵札の意味を児童に考えてもらっていた



Contents

- P1 Close Up クローズアップ 教育プログラム①
- P3 Safety Report セーフティルポ こども
- P4 Close Up クローズアップ 教育プログラム②
Close Up クローズアップ Honda の活動
- P5 SJ Interview 特別編
名古屋工業大学 教授 鈴木弘司さん
(株) ストリーモ 代表取締役 CEO 森庸太郎さん
- P6 All About SAFETY 安全をいかに創造するか
- P7 TRAFFIC SCOPE 交通参加者の行動を観察する
- P8 危険予測トレーニング (KYT)
SJ クイズ



Safety for Everyone

Honda はすべての人の
交通安全を願い活動しています。

SJ ホームページは

ホンダ SJ

検索

編集部：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL：03(5412)1736
<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/>
編集人：横山謙一

※ご不明な点がございましたら下記までお問い合わせください。
(株)アストクリエイティブ安全運転普及本部係
TEL：03(5439)1191
E-mail：sj-mail@spirit.honda.co.jp

ングや使い方（1回に使う枚数など）は各担任に任せています。下校前の帰りの会が多いですが、授業の合間などの空き時間を活用する担任もいます。

各クラスの担任は自分のタブレット端末を操作しながら「デジタルかるた」を進めていく。タブレット端末の画面は教室のモニターに映し出され、児童が共有できるようになっている。2年生の担任教諭 植田優さんは「その絵札が伝えていることは何か、これまで学んできた交通安全の知識をもとに考えられる点が、『デジタルかるた』の良さだと感じています。子どもたちも楽しみながら取り組んでいます」という。3・4年生（複式学級）の担任教諭 橋詰拓さんは、絵札とともに読み札の最後のフレーズを提示するという独自のやり方で「デジタルかるた」を使っている。「子どもたちは答えを五七五にまとめようとします。五七五にとらわれず、自



下校前の帰りの会で「デジタルかるた」を活用する先生方が多い(写真左・2年生、写真右・6年生)

由に考えてほしいと思い、このやり方にしました。『デジタルかるた』には小学生に必要な交通安全の知識が網羅されています。日常生活と兼ね合わせて、子どもたちが振り返り、考えやすい教材だと思います。

ある4年生の児童は「ね」の札（寝坊して いそぐ気持ちが事故のもと）を学んだことで、「自分も急いでいる時、あまり周りを気にしていなかったのを、止まってよく観ようと思いました」と安全確認を意識するようになったと話す。6年生の担任教諭 和田直之さんは活用しがいい教材だと「デジタルかるた」を評価する。「6年生ということもあり、子どもたちは『かるた』と聞いて最初は『幼い』『こどもっぽい』という印象を持ったようです。しかし、絵札から読み札を当てるというゲーム性があることから、興味を持って取り組んでくれるようになりました。繰り返すことによ



て、かるた一枚一枚の意味について深く考える余裕が生まれます。そのためにも、継続していくことが重要だと思っています。

6年生の児童は「自転車の乗り方やルールを学べたので、自転車に乗る時に気をつけようと思います」「駐車場で遊んでいる子どもが描かれた絵札（公園と同じじゃないよ 駐車場）が印象に残っています。6年生として、駐車場で遊んでいる子どもを見かけたら注意したいと思います」と「デジタルかるた」の感想を語った。

「子どもたちが下校時に交通安全のことを話しながら帰る様子を見ると、このクラスは『デジタルかるた』をやったんだとわかります」と近藤さんはいう。『『デジタルかるた』を取り入れて以降、学校周辺にお住まいの方からの苦情も減っていますから、校外での行動も良い方向に変化していると思います。』



高知大学教育学部附属小学校 教頭 近藤修史さん

事例② 松山市立姫山小学校

児童によるお昼の放送の中で「デジタルかるた」を活用

愛媛県の松山市立姫山小学校はお昼の放送で「デジタルかるた」を使っている。5月から毎週金曜日の放送の中に交通安全のコーナーを設けたのである。その背景を同校で交通安全を担当する教諭 垣内洋介さんは「『デジタルかるた』のことを知り、とても良い教材だと思いました。しかし、私たちが交通安全指導のための時間をとるのはなかなか難しいのが現状です。どうしたら『デジタルかるた』を有効に活用できるかを校長と相談し、お昼の放送の中で取り入れることにしました。特に休日の前は、子どもたちの気持ちが浮つきがちなので、『デジタルかるた』の日は金曜日に設定しています」と説明する。

10分間のこの放送は同校の放送委員会（5・6年生12名）によって運営され、全校児童（515名）が給食を食べながら視聴している。交通安全のコーナーになると、各教室に設置されているモニターに「デジタルかるた」の絵札の画像が映し出され、放送委員の児童が「このかるたの読み札は何でしょう？」と問いかける。少し間をおいてから正解を読み上げ、事故防止につながるアドバイスをするという流れだ。

放送委員の児童は「それまで交通安全について深く考えることはなかったのですが、先生から話を聞いた時、新しいことができるとして始めました。『あ』から順番に、1回の放送で2枚の札を紹介しています。放送の前、原稿に目を通すと『こんなルールがあったんだ』『こんなことに気をつけないと危ないんだ』と、私たちも発見があります。特に自転車に関するルールなどは、ちゃんとわかっていない人もいますので、しっかり伝えたいと思っています。放送を聞いている人から『交通安全がわかりやすくなった』といわれるようになりました」と話す。

放送を視聴している児童に話を聞くと、「『デジタルかるた』を使った説明は、見ていておもしろいです。普段の生活の中でも交通安全のことを考えるようになりました」「自分は何ができて、何ができていないのかよくわかります。自転車で走り出す時に後ろを見ることはやっていなかったのを、気をつけています」「上級生の人たちが教えてくれるのはうれしいし、親近感がわきます」と答えてくれた。

「この『デジタルかるた』はイラストの言語化といえます。それを子どもたち一人ひとりが自分の頭の中でやるため、交通安全に対する意識の向上が期待できます。継続することを考えた場合、私たち教員がやるよりも放送委員会に任



松山市立姫山小学校では放送委員会の児童たちが協力し、放送機材やパソコンを駆使しながら「デジタルかるた」を各教室に配信している



教室で給食を食べながら「デジタルかるた」による説明を視聴する児童

せて良かったと思います。結果として、自分たちの身近な人が交通安全を教えてくれるということで、より親しみやすいものになりました。最後の札まで終わったら、また最初から2周目をやるつもりです」と、垣内さんは少しの時間でも継続させていくことが重要だと考えている。



松山市立姫山小学校 教諭 垣内洋介さん

高知大学教育学部附属小学校と松山市立姫山小学校、両校とも日常的に「デジタルかるた」を取り入れ、継続的に交通安全教育を行う体制づくりをしたことで児童の意識が高まっている。わずかな時間でも交通安全教育を続けることに意味があるといえるだろう。

児童向け教材「デジタル交通安全かるた」

交通に関する全45枚で構成されたPowerPoint形式のコンテンツ
(歩行者19枚・自転車14枚・クルマ6枚・その他6枚)



絵札が表している交通ルールやマナーを子どもたちに考えてもらう



読み札を読むことで、絵札の交通ルールやマナーに気づいてもらう



絵札のアニメーションにより、指導ポイントを伝える
(危険な行動には×を表示)

活用を希望される小学校、自治体、団体の方は下記にお問い合わせください。
本田技研工業(株) 安全運転普及本部 TEL 03 (5412) 1150